

## 刊行の辞

日韓談話室代表世話人 橋本 明

皆様 五月二十七日は崔書勉博士が日本に居着いてちょうど六〇年を経る大事な一日となります。

崔文学博士は常にソクラテスを胸に秘めて滞日されました。外国に身を置いて決して韓国の悪口を言わない人物です。従って朴前大統領についても無言の業を貫きました。

自国について何も知らないことを恥とされながら、もっぱら国会図書館、外交史料館に通い、懸命に学んだ。亜細亜大学で職を見つけ、さらに生きた教材として東京神田街の古書店を实地にめぐり、安重根自らの獄中日記等を発見し、彼を日本人に理解させることが可能であれば韓国学の底辺に据えると誓った。

『韓国研究の魁 崔書勉』という崔文学博士の偉大な人物について私橋本明が一冊の本にまとめることが叶うとはおこがましい振る舞いですが、貴重な六〇年に亘る博士の半生は両国のわだかまりを充分補って足るものと確信する次第です。